



IB 教育特集 第1号 「正解のない時代」を生き抜く力を ——国際バカロレア(MYP)への挑戦が始まります

令和7年6月26日に詫間中学校は、国際バカロレア (IB) 中等教育プログラム (MYP) の候補校として認められました。現在、認定校を目指しています。今、取り組んでいる国際バカロレア (IB) 教育について、学校通信「浦島伝説」の IB 教育特集 (第1～5号) でお伝えします。

1. なぜ今、本校は国際バカロレア (IB) を目指すのか

急速に変化する現代社会において、子どもたちが将来直面するのは、誰も答えを知らない複雑な課題ばかりです。これまでの「正解をいかに速く正確に答えるか」という学びだけでは、十分ではありません。本校が導入を目指す MYP (Middle Years Programme: 中等教育プログラム) は、11 歳～16 歳を対象とした、知的好奇心を刺激する教育の枠組みです。学習指導要領の内容をしっかりと踏まえつつ、それを「どう活用し、社会にどう貢献するか」という「探究」のプロセスを重視します。世界標準の教育を取り入れることで、生徒一人ひとりが「自ら考え、行動する力」を養うことを目指します。



2. IB の教育目標: 世界が求める「10の学習者像」

IB 教育の根本には、知識の習得だけでなく、人間性の成長を促すという強い信念があります。その指標となるのが「**IB の学習者像 (Learner Profile)**」です。私たちは、生徒の皆さんに以下のような人物になってほしいと願っています。

- **探究する人** Inquirers (好奇心を育み、自ら進んで学ぶ)
- **知識のある人** Knowledgeable (概念を理解し、多角的に取り組む)
- **考える人** Thinkers (複雑な問題を分析し、責任ある行動をとる)
- **コミュニケーションができる人** Communicators (自信を持って複数の言語や方法で表現する)
- **信念を持つ人** Principled (誠実で公平な心を持ち、責任をもつ)
- **心を開く人** Open-minded (自分の文化を理解し、他者の価値観も尊重する)
- **思いやりのある人** Caring (共感し、他者の人生や環境に貢献する)
- **挑戦する人** Risk-takers (不確かな状況にも勇気を持って立ち向かう)
- **バランスのとれた人** Balanced (心身の健康と、多角的な側面を大切にする)
- **振り返りができる人** Reflective (自分の学びや経験を客観的に見つめる)

3. 教科の名称と「学びの枠組み」の違い

MYP では、学習指導要領の「数学」や「理科」といった枠組みを大切にしつつ、呼び方を国際基準に合わせることで、その教科が持つ本来の役割を明確にします。

MYP の教科	学習指導要領の教科	学びの焦点
言語と文学 Language and literature	国語	文学作品の読解だけでなく、文脈を批判的に読み解く力を養います。
言語の習得 Language acquisition	英語	異文化への理解を深め、実社会で使える多言語能力を磨きます。
個人と社会 Individuals and societies	社会	歴史や地理の事実関係に加え、社会的な正義や持続可能性を考えます。
理科 Sciences	理科	実験や観察を通じ、科学的なプロセス（探究手法）そのものを学びます。
数学 Mathematics	数学	抽象的な数式が、実世界の建築や経済とどうつながっているかを学びます。
芸術 Arts	美術・音楽	表現の技術だけでなく、創造の過程を記録し、自己を表現します。
保健体育 Physical and health education	保健体育	自身の身体能力の向上とともに、心身の健康（ウェルビーイング）を追求します。
デザイン Design	技術・家庭	誰かの困りごとを解決するために、思考を巡らせて具体物を制作します。

4. 授業はどう変わるのか

MYP の授業の最大の特徴は、「概念（大きなアイデア）」と「文脈（実社会との繋がり）」を軸に進められることです。例えば、理科で「細胞」を学ぶ際、単に細胞の名称を覚えるだけではありません。「システム」という概念を軸に、「細胞がどのように生命維持のシステムとして機能しているか（概念）」を学び、さらには「医療技術の発展が社会にどう影響するか（文脈）」といったところまで、教科横断的に探究を深めていきます。授業内では、教員が一方向的に説明をする時間は減り、生徒同士のディスカッション、調査、プレゼンテーション、そして「学んだことが自分や社会にどう関わるか」という「振り返り」の時間が格段に増えることになります。



保護者・地域の皆様へ

IB 教育は、決して「英語が得意な子のための特別な教育」ではありません。日本での教育を土台としながら、子どもたちが「学び方そのもの」を身につけ、自信を持って世界へ、未来へ踏み出すための教育です。ぜひ、ご家庭でも「今日はどんな疑問を見つけたの？」と声をかけてみてください。